

19歳で公認会計士に合格して

あずさ監査法人 末永 悠二

私は2008年度の公認会計士試験に19歳という年齢で最年少合格をすることが出来ました。私が公認会計士を目指そうと思ったきっかけは宮城県大河原商業高校2年生のときでした。当時の簿記の先生から公認会計士という仕事があることを教わり、公認会計士が社会的地位・責任が強く非常にやりがいがある仕事であるということを知りました。私は社会的責任がある仕事がしたいと思っていましたし、会計のプロフェッショナルを目指したいという気持ちがあったため自然と将来は公認会計士として働いていきたいと思うようになりました。まず、最年少合格をすることができた要因のひとつが公認会計士になりたいと強く思っていたことだと思います。将来やりたいものははっきりとしていたからこそ、大変な学習も乗り越えられたと思います。

公認会計士試験に合格するために、毎日毎日可能な限り学習しました。公認会計士試験の学習内容は高校生のときに学習してきたものとは難易度・専門性が全く違うものでした。しかし、どんな学習をする上でも基礎となるものは高校生のときに学習したものでした。高校生のときに学習した基礎知識があるからこそどんな分野の学習にもスムーズに取り組んでいくことができたと思います。その結果として、高校卒業後、3か月で日商簿記検定1級、4ヶ月で全経簿記能力検定上級、そして、それから1年後に公認会計士試験に合格することが出来ました。商業高校での学習で身につけた基礎知識が将来につながっていると思って学習していけば良いと強く思いました。また、私は高校時代、野球部に所属していました。所属していた部活動は練習が厳しく、とても大変でしたが体力・精神力を身につけることができました。体力・精神力を高校生のときに身につけることができたからこそ、大変な学習を継続的にこなすことができたのだと思います。

公認会計士試験に合格し現在は実際に社会に出て仕事をしていますが、これまで学んできたことが公認会計士として仕事をするうえでの全ての基礎となっています。公認会計士は複雑な会計・監査に関する事項を取り扱っていくことになるため、これまで学んだこと以上に更なる専門的な知識を常に身につけていく必要があります。このように、会計・監査のプロフェッショナルである公認会計士は社会のニーズにあった専門的な知識が必要となるため、公認会計士試験に合格したことがゴールであるわけではなく、公認会計士試験に合格したことが公認会計士としてのスタートであるため、日々自分自身の専門的知識の向上のため学習していかなければなりません。

専門的な知識を身につけていく上で基礎となるものは今まで学んできた公認会計士試験の内容となるため、これまで学んできたことは自分自身の成長のために生きています。これからも常に成長していかなければならないため、更に公認会計士試験で学んできたことを活かして行きたいと思います。

また、公認会計士は専門的な知識のみならず監査チーム内、会社とのコミュニケーション能力が重要になってきます。いくら専門的な知識があったとしてもコミュニケーションをうまく取ることが出来なければ、自分自身の能力を最大限に発揮することは出来ません。そのため、コミュニケーションをより良く取ることができるよう、普段から心がけていきたいと思っています。

最後に、公認会計士試験に合格し約1年が経ちますが、公認会計士試験に受かった当初の気持ちを忘れず、社会的責任を負って仕事をしているということを常に念頭に置き、これから仕事をしていきたいと思っています。理想とする公認会計士になれるよう頑張っていきたいです。

2010年4月15日 印刷
2010年4月20日 発行
定価 210円
(本体200円)

© 編修・発行

実教出版株式会社

代表者 島根 正幸

発行所 〒102-8377 東京都千代田区五番町5
TEL. 03-3238-7777
<http://www.jikkyo.co.jp/>